

## 研究成果の刊行に関する一覧表

1. ニホンザル集団の歴年変化 — 岡山県勝山の場合 — , 大阪大学人間科学部創立十周年記念論集, 大阪大学人間科学部発行, 1983年12月, 糸魚川直祐。
2. イヌの母子行動, 「子どもの未来科学」, 昭和58年6月20日, 同朋舎, 森永良子。
3. 犬にみられる母仔相互作用, 周産期医学, 13巻12号, 昭和58年11月, 東京医学社, 森永良子, 岡野恒也。
4. 新生児の姿勢制御 — 周産期医学, 第13巻第12号, 臨時増刊号 — , 昭和58年11月, 東京医学社, 平沢弥一郎。
5. 「コンピュータ画像処理を利用した顔の表情の自動認識」, 1984年3月, 投稿中, 日本機械学会関西支部, 石井威望, 岩田洋夫。
6. 胎児からの子育て, 昭和58年5月10日, 築地書館, 大島清。
7. 胎児からの子育て, 21回日本医学会総会誌, 昭和58年11月1日, 医学会総会, 大島清。
8. 心因性腹痛, 小児内科15巻2号, p.231~236, 東京医学社, 鈴木栄。
9. 夜尿症の治療 — 心身医学的な面を中心に — , 臨床泌尿器科37巻8号, p.677~685, 1983年8月20日, 医学書院, 鈴木栄。
10. 小児心身症の背景としての親(父)子関係, 周産期医学13巻12号, p.2051~2054 (臨時増刊号), 1983年12月, 東京医学社, 鈴木栄。
11. 子宮内音の新生児, 未熟児に及ぼす影響, 周産期医学Vol.13, №12, 1983年, 東京医学社, 田角勝, 武藤文男, 奥山和男。
12. 聴覚神経系の発達 — 解剖・生理・行動, 周産期医学, Vol.13, 12, 昭和58年11月, 東京医学社, 加藤君孝, 鈴木淳一。
13. Brazelton 新生児行動評価法の実践 (周産期医学Vol.13, №12, 1983), 昭和58年11月30日, 東京医学社, 加藤忠明。
14. Brazelton の新生児行動評価法 (周産期医学Vol.14, №1, 1983), 昭和58年12月30日, 東京医学社, 加藤忠明。
15. 育児休業(暇)はいかにあるべきか — 小児科の立場から — (周産期医学13(12):2291~2294, 1983, 多田裕。
16. 妊娠と母性同一性(発達№1/4), 昭和58年4月25日, ミネルヴァ書房, 七浦久子・秋山俊夫。
17. 親の子どもへの接触の仕方と愛着の形成 (周産期医学Vol.13, №12), 昭和58年11月30日, 東京医学社, 山下文雄・板井修一・秋山俊夫。
18. 母子間の心理的距離(別冊 発達), 昭和59年3月10日, ミネルヴァ書房, 秋山俊夫。
19. 電子スキャンによる胎児眼球運動の観察(第1報), 昭和58年5月, 日本超音波医学会講演文集42:625, 1983, 井上充・小柳孝司・原賢治・道岳史・中原博正・中野仁雄。
20. Supplemental Stimulation (臨産婦, 37(8):543-545, 1983), 1983年8月, 馬場一雄。
21. 母乳栄養の新生児行動に及ぼす影響と乳児の気質 (周産期医学13巻12号), 昭和58年11月, 東京医学社, 前川喜平。
22. Sucking Behavioral Response to Taste and Infant Temperament (Proceeding of XVII International Congress of Pediatrics, 1983, Nov. 7-12.

K.Maekawa 他

23. 産科と婦人科「乳汁分泌に影響を及ぼす産科的諸因子の検討」, 昭和58年12月1日, 診断と治療, 武谷雄二・木下俊彦・水野正彦・坂元正一。
24. 母親の性格と新生児の行動特徴の關係に関する研究, 昭和58年11月, 周産期医学(東京医学社), 若麻續佳樹・水上啓子・越野立夫・高橋亘。
25. 匂いと味と母子相互作用(周産期医学, 13:1927, 1983), 昭和58年11月30日, 東京医学社, 山内逸郎。
26. 母乳の匂いに対する新生児の反応(第1回高砂香料シンポジウム記録), 昭和58年12月, 高砂香料研究所, 山内逸郎。
27. 被虐待児の診断と治療をめぐる(小児看護, 6巻6号), へるす出版, 池田由子。
28. 児童虐待をめぐる海外の状況について(小児看護, 6巻6号), へるす出版, 池田由子。
29. Child Abuse in Japan "Japanese Culture and Mental Health" Conference, at the East-West Center, Univ. of Hawaii, Honolulu, Hawaii, U.S.A 1983, 8, 印刷中, Yoshiko Ikeda。
30. 保育園適応と母子相互作用理論, 周産期医学第13巻第12号, 1983年12月, 東京医学社, 小嶋謙四郎・田辺敦子。
31. 小児肥満(臨床栄養63(1)), (行動学的観点と母子相互作用との関連も加えて論じた), 昭和58年7月, 畠山富而。
32. サルにおける母子隔離の影響(周産期医学13(12), 臨時増刊号), 昭和58年, 畠山富而。
33. 反復性腹痛, 1983年8月, 小児科Mook, 金原出版, 中村孝。
34. 被虐待児症候群(母性剝奪症候群)の児の看護をとおして, 1983年6月, 小児看護 へるす出版, 水守法子他。
35. 小児の肥満とやせの背景としての親子関係 — 久山町幼児の肥満の度合と家族構成 — (周産期医学13巻12号), 昭和58年11月, 東京医学社, 黒川徹・松尾誠・富田茂・陳永栄。
36. てんかん児における行動異常と親子関係(周産期医学13巻12号), 昭和58年11月, 東京医学社, 松尾誠・黒川徹。
37. 約50年前の青島における親子相互関係(周産期医学13巻12号), 昭和58年11月30日, 寺脇保・馬場泰光・南道子。
38. 育児を考える(小児科診療46(1), 83~95, 1983, 小林登・田中シゲ子・国分義行・浅野秀二。
39. 母子相互作用の意義(周産期医学13(12):1823-26, 1983, 小林登。
40. 周生期の母子間コミュニケーションにおけるエントレメントとその母子相互作用としての意義, (周産期医学13(12):1883-1896, 1983, 小林登・石井威望・高橋悦二郎・渡辺富夫・加藤忠明・多田裕。